令和５年度第１回

さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会

会　　　議　　　録

日　時：２０２３年7月１９日（水）午前9時３０分開会
場　所：札 幌 市 ス ポ ー ツ 局　　７ 階　　会 議 室

１．開　　会

○平本会長　定刻となりましたので、ただいまより令和５年度第１回さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会を開会します。

本日は、お忙しい中、早い時間からお集まりをいただき、どうもありがとうございます。

それではまず、事務局よりご報告がございますので、お願いいたします。

○事務局（加茂政策企画部長）　皆様、おはようございます。

本日は、朝早くから、ご多忙のところ、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の加茂と申します。この４月に着任いたしまして、さっぽろ連携中枢都市圏のことを所管させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の懇談会には１１名の皆様にご出席をいただいております。

次に、お手元の資料をご覧いただきたいのですが、資料２と右上に振ってある資料がさっぽろ連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱です。その裏側に第６条（会議等）という項目がありますが、まず、第６条第３項に基づき、この会議が成立しているということをご報告させていただきます。

続きまして、資料の表面の第１条です。こちらに懇談会の目的を記しておりまして、連携中枢都市圏ビジョンに関し、必要な協議や懇談を行うとしております。本懇談会でいただいたご意見等を通し、よりよいビジョンをつくっていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

また、本日は、新たに構成員としてご就任をいただきました北海道バス協会の今様、北海道農業協同組合の髙橋様、環境省北海道地方環境事務所の田村様にもご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、今回、所用により欠席されておりますけれども、札幌市医師会の尾形様、北海道商工会議所連合会の立藤様、北海道社会福祉協議会の前田様にも新たに構成員としてご就任をいただいておりまして、このことをご報告させていただきます。

続きまして、資料の確認をさせていただきたいと思います。

資料１は資料１－１と資料１－２、資料２、資料３、資料４、資料５は資料５－１と資料５－２、資料６ということで、資料１から資料６までございます。そして、参考資料１をつけております。

資料の過不足がございましたらお申出をいただきたいと思います。

○平本会長　加茂部長、どうもありがとうございました。

２．議　　事

○平本会長　本日の議題ですが、２点ございまして、（１）のさっぽろ連携中枢都市圏における取組の進捗管理及びビジョンの年次更新について。（２）の第２期さっぽろ連携中

枢都市圏ビジョンの策定についてです。
　まず、議題（１）から資料に基づきましてご説明をお願いいたします。
〇事務局（伊藤広域連携担当課長）　まず、進捗管理についてご説明いたします。
　資料３－１をご覧ください。
　こちらは、さっぽろ連携中枢都市圏の２０２２年度の評価指標の達成状況です。
　上の表ですが、連携事業ごとに設定した全８０個の評価指標について、昨年度の達成状況を記載しております。このうち、評価時期が未到来などの理由により、評価不可、横バーとなる９指標を除いた７１指標について達成済み、二重丸となっておりますのは４７指標となりまして、約７割を占めております。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、未達、バツとなった９指標を除きますと、約８割が達成済みとなり、コロナ禍においても一定の事業遂行ができたものと考えております。
　下の段の三つの役割における重要業績評価指標についてですが、実績値の欄は２０２１年の古い数字とはなりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、悪化しており、２０２２年においても大きな改善はしていないものと思われます。引き続き、指標の達成に向け、圏域全体で取組を進めていきたいと考えております。
　各事業における取組結果は、資料３－２にまとめております。詳細について、黄色で網かけをしている事業を中心にご説明させていただきます。
　Ａ３判の資料３－２をご覧ください。
　まず、圏域全体の経済成長のけん引の分野です。
　上から二つ目の２の連携した企業誘致の推進ですが、事業概要としましては、圏域、道内経済をけん引するため、道外企業を対象とした企業立地動向調査、企業誘致のための情報共有、産業展示会の共同出展や各市町村の単独出展時における他市町村のＰＲ、企業立地補助の実施等による効果的な企業誘致を推進するというものです。
　右端の連携事業実施状況等の欄をご覧ください。
　産業展示会の共同出展としましては、昨年５月に東京ビッグサイトで開催されました企業立地フェアに圏域として出展しております。また、企業立地補助の実施等についてですが、令和４年度中に市外立地案件は恵庭市で１件ございました。
　今後、補助適用予定として千歳市及び石狩市に立地する案件申請もございます。
　ちなみに、この恵庭市の企業ですが、久原本家北海道工場となりまして、既に稼働しております。
　二つ下の４の新製品新技術開発のための支援をご覧ください。
　事業概要としましては、圏域の強みとなり得る新産業の育成を支援するため、食、健康医療、環境、ＩＴ、製造の分野を対象とした実用化、事業化の可能性が高い新製品、新技術開発に対する補助のほか、デザイン、ブランディング、マーケティング、セールス等の分野の専門家チームの企業への派遣等を行うというものです。
　事業実績状況ですが、ものづくり開発推進事業として、札幌の企業が８件採択されてお

りまして、環境技術・製品開発支援事業として、札幌の企業が１件、千歳市の企業が１件採択されております。

小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業としては、札幌市の企業が９件、恵庭市の企業が１件採択されております。

プロダクトデザイナー派遣事業としては、札幌市の企業が３件採択されております。

環境技術・製品開発支援事業で採択されている千歳市の１件ですが、こちらは株式会社ＦＪコンポジットという企業になりまして、燃料電池用セパレーター材料の開発に補助金が使われたということです。

また、小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業の恵庭市の１件ですが、フロントテック株式会社という企業でして、凍結・乾燥機製作のために補助金が使われたということになっております。

２枚おめくりください。

高次の都市機能の集積・強化の分野です。

上から三つ目の１４の丘珠空港の利用促進となります。

事業概要としましては、丘珠空港が持つビジネス、観光、防災、医療等を支える機能を圏域の活力向上に生かすため、丘珠空港の利用促進に向けた丘珠空港路線やアクセス等の空港関連情報の周知活動等を行うというものになります。

事業実施状況ですが、イベントの実施やメディアによる丘珠空港関連情報の周知活動や機材更新によるキャパシティーの増、また、松本線、静岡線の運航再開、期間延長等により、ビジネス客を中心に利用者が増え、３０万人を超えております。

１枚おめくりください。

圏域全体の生活関連機能サービスの向上の分野になります。

上から六つ目の２３の公立夜間中学の共同活用です。

事業概要としましては、圏域における多様な学びを支える環境の充実を図るため、様々な理由により学び直しを希望する方を対象とした公立夜間中学の共同活用を行うというものです。

令和４年４月に北海道初の公立夜間中学校として星友館中学校が開校いたしまして、連携市町村からは計９名の方が入学されています。最新の状況では、１名増え、１０名の方が在籍されております。

１枚おめくりください。

下から四つ目の４３の圏域外からの移住促進です。

事業概要としましては、圏域外からの移住を促進し、圏域における人口減少の緩和や労働力の確保等を図るため、道外における移住イベントの開催や情報発信を行うというものになります。

事業実施状況ですが、令和５年１月１４日に北海道さっぽろ圏移住フェアを東京の神田明神文化交流館で行いまして、当日は約２００名の方にご来場をいただいております。

最後のページをご覧ください。
上から二つ目の４８のさっぽろ圏人材育成・確保基金の造成です。
事業概要は、圏域における人材の育成確保を図るため、企業版ふるさと納税制度の活用等により、さっぽろ圏人材育成・確保基金を造成するというものです。
個人からの寄附は３，５９９件、６，６２４万６，０００円で、企業からの寄附が４件、３８０万円となっております。
この基金を活用して実施した事業が周産期救急医療に関する研修、奨学金返還支援事業となります。
下から五つ目の５２の鳥獣対策等に関する取組の推進です。
事業概要といたしましては、圏域における鳥獣被害の防止等のため、ヒグマその他の鳥獣対策に関する広域的な取組を行うというものです。
事業実施状況等ですが、職員向けヒグマ及びエゾシカ研修を５月に開催し、連携市町村の職員の方にもご参加をいただいております。また、札幌市で小・中学校向けに実施しているヒグマ講座を江別市内の小学校で実施いたしました。江別市の対雁小学校というところで実施しておりまして、札幌市外でこのような講座を開催するのは初めてとなります。内容につきましては、ヒグマの生態やヒグマに出会わないための方法について、また、毛皮や頭骨、ふんなどの標本を用いて説明したということです。
連携事業実施状況等一覧のご説明については以上となります。
続きまして、ビジョンの年次更新についてご説明させていただきます。
資料４をご覧ください。
さっぽろ圏連携中枢都市圏ビジョン概要になります。
さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンは毎年４月に年次更新をしているのですが、今年は、統一地方選挙があったため、補正予算がありまして、事業費が確定するのが７月となったので、７月で変更する予定となっております。
右下、Ⅲの計画の体系のところをご覧ください。
令和５年度の事業数は５４事業で、事業費見込額は８８億２，２００万円となっております。
１枚おめくりください。
赤字になっているのが今回の変更箇所になります。
まず、水色の圏域全体の経済成長のけん引ですが、上から五つ目の地域資源の活用に向けた支援というものです。事業概要として、今までは食品の新商品開発支援となっていたのですが、今年度からはサステナブル食品の開発に係る補助へと変更となっております。
また、その二つ下、人手不足に向けた支援につきましては、今年度からの新たな事業となります。内容としましては、省力化、自動化に資する取組に対する補助、女性が働きやすい環境づくりに取り組む企業に対する助成となります。
右側の緑色の圏域全体の生活関連機能サービスの向上の分野では、上から六つ目の廃棄

物等の共同処理の事業において、石狩市と当別町で収集した可燃ごみの受入れ・処理に係る検討という文言を追加しております。

また、その下のオープンデータプラットフォームの共同利用においては、令和４年１２月にさっぽろ圏データ取引市場が立ち上がりましたので、その文言について追加しております。

資料４の説明については以上となります。

議題（１）の進捗管理及びビジョンの年次更新についての説明は以上です。

○平本会長　ただいまご説明いただきました進捗管理及びビジョンの年次更新についてご質問やご意見等があればご自由にご発言をいただきたいと思いますが､いかがでしょうか。

○越田構成員　先ほどの資料４のサステナブル食品というのは具体的にどういう食品のことをイメージされていますでしょうか。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　担当部署に確認したところ、かなり幅広い概念ということでした。

例えば、廃棄される食品、原料を使った食品の開発、あるいは、パッケージを工夫することによって賞味期限を延ばすことができるもの、さらには、広い意味ではビーガン食品の開発というのもサステナブル食品という概念に入るそうです。

○平本会長　私もこのサステナブル食品とは何ですかと事前にご説明を伺ったときにお尋ねしたら、かなり広い範囲だということでした。ビーガンというのもそうなのですね。

ほかにお気づきの点、あるいは、ご質問やご意見はございませんか。

○李副会長　資料３－２の２の連携した企業誘致のところについてです。

先ほどの恵庭市のものは久原本家の北海道アイの工場だと思います｡差し支えなければ、千歳市と石狩市のものはどんな企業なのかも教えていただければと思います。まだ発表できないのだったら伏せても構いません。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　あまり積極的には公表していないそうですが、石狩市のものはデータセンター関連、千歳市のものは食品関連というふうに聞いております。

○李副会長　また、少し気になったところがあります。

資料３－２の２３に学び直しとあるのですけれども、これはよく使われる用語だと思います。ただ、最近では、学び直しだけでは間に合わなくなっていて、例えば、大学でもアップスキリング、学び足すという表現がもっといいだろうみたいな話になっていて、私たちのビジネススクールでも表現を変えようかということを検討しているので、それも検討していただければと思いました。

○平本会長　公立夜間中学の共同活用に関し、李副会長がご指摘の学び直しだけでなく、学び足すということについては現行のやり方でも可能なのですか。

○事務局（加茂政策企画部長）　詳細は教育委員会に確認しないと分かりませんけれども、現在の私の理解では足すまでの部分まではまだいっていないのかなと思っています。

実は、今日のＮＨＫの朝のニュースでも夜間中学のことが偶然取り上げられておりまし

たけれども、今のところ、義務教育を受けられなかった方が学び直しをするということがメインとなっていると思います。それに、足すとなりますと、生涯学習など、いろいろな範疇にまで広がっていくと思いますし、それを夜間中学でやるものなのかどうか、いろいろと整理が必要かなと思っております。

○平本会長　いろいろな場面で学び足しのようなことも今後は必要になってくるというご指摘だろうと思いますので、連携中枢都市圏の枠組みの中でそういうことができるといいなと思いました。

ほかにはいかがでしょうか。

○李副会長　最後におっしゃっていた熊対策についてですが、大変すばらしい取組だと思って聞いていました。最近は、毎日のようにテレビ等で熊の出現の話が報道されていますので、やっぱり対策をしっかりと打つというのはすごく大事なことだなと思っています。

ただ、これを見ますと、札幌市以外では江別市の小学校だけしか実施されていないのです。せっかくですので、本当に広く、ここに参加している全ての市町村でこういった講座が、例えば、オンラインなどでも開講されたらもっといいのかなと思って聞いていました。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　担当部署と相談し、広くＰＲするようにやっていきたいと思います。

○平本会長　熊対策というのは札幌市にアドバンテージがあるのですか。

札幌市内での熊の目撃情報はよく報じられますけれども、小樽などでも熊が出るとよく言われていますよね。今回の話は今まで札幌市でやっていたことを江別市の小学校でもやったということだと思うのですけれども、札幌市に熊対策や熊教育に関する一定の集積みたいなものがあるのですか。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　担当部署はございますけれども、それがほかの市町村に比べてアドバンテージなのかどうか、申し訳ないですが、把握しておりません。

○平本会長　申し上げたかったのは、連携中枢都市圏を構成する各市町村にそれぞれの知見があって､そういうものを持ち寄るともっといい話になるかなと思ったということです。せっかく連携中枢都市圏でやるのでしたらば、お互いが持っているものを持ち寄って、よりよい熊対策を考える、それを教育するような機会ができるといいなという気持ちでお尋ねしたということです。

○草野構成員　前職でヒグマの調査をしていた人間ですので、私からもお話しします。

今、私の団体では、ヒグマをはじめ、野生動物の子どもたち向けの教育プログラムみたいなことをやっているのですが、ほかの自治体、例えば、この間、江別市の小学生が私の団体のヒグマの教育プログラムの実習を受けに来ていました。このように、民間が推進してやってきたところがあるのかなと思っております。

先ほどおっしゃったのは札幌市の職員の方が江別に行かれたという認識で合っていますか。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　はい。

○草野構成員　そうでしたら、民間のデータといいますか、民間でどういう取組をしているかということがあってもいいのかなと思いました。

また、恐らく、ヒグマのことで言うと、ＧＰＳなどの出没データ情報の広域連携が重要だと思っています。例えば、いつ、どこでふんが発見されたかです。市町村を超えて共有する仕組みもあるのですけれども、自治体間連携をしているかどうかは確認してみてもいいところかなと思いました。

○平本会長　熊には市や町の境がないわけですし、まさに広域連携をすることで熊の生態を知ることができるというお話かと思います。

私は、丘珠空港の利用促進をいろいろな意味で期待しています。滑走路を少し長くすることは決まっているというお話で、今後、冬期間でもジェット旅客機が離発着できるというようなことも期待しているのですけれども、連携中枢都市圏という中で丘珠空港を考えるとき、丘珠空港の位置を考えると江別市に割と近いということもありますよね。

そうしたことも含め、連携中枢都市という位置づけの中で丘珠空港の利用を促進すると圏域全体としてどんなメリットがあると想定されるのでしょうか。委員の皆様でもご知見をお持ちの方がいらっしゃったらお教えいただきたいと思っています。

第２空港の活用については海外、特にアメリカなどでは第２空港を使ってＬＣＣを飛ばすということが当たり前になっているわけですけれども、連携中枢都市の文脈で丘珠空港の利用を促進することの積極的なメリットみたいなものがもしあれば教えてほしいと思います。

○事務局（加茂政策企画部長）　今、平本会長がおっしゃったように、滑走路を延長し、ジェット旅客機が来て来客数が増えるということがあります。それから、医療ジェットやプライベートジェット、これにもハードルがいろいろとあるのですけれども、そういうこともイメージの一つとしては入っておりまして、そうなると圏域に来られる方の幅がさらに広がるというような効果があると考えております。

○平本会長　ほかに何かお気づきの点やご意見等があればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長　ないということでしたら、（２）の議題に進みまして、お気づきの点があれば後でご発言をいただくことにいたします。

続きまして、議題（２）の第２期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの策定についてです。

資料に基づきまして事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　それでは、第２期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの策定についてご説明いたします。

資料５－１をご覧ください。

まず、第２期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの策定に当たりましては、Ⅰとして第１期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの振り返りを行いました。

１の第１期ビジョンの主な取組と成果です。

先ほどご説明したもの以外ですと、圏域全体の経済成長のけん引の分野では、創業の促進として、スタートアップ企業と地域・行政課題を有する連携市町村とのマッチングを行うＬｏｃａｌ　Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ　Ｃｈａｌｌｅｎｇｅ　ＨＯＫＫＡＩＤＯを実施いたしました。

また、共同プロモーションや観光資源の活用等の推進として、圏域内を周遊する着地型旅行商品を造成、販売したほか、圏域の魅力をＳＮＳで発信しております。

（２）の高次の都市機能の集積・強化につきましては、先ほどご説明した丘珠空港の利用促進を取り上げております。

右側に移りまして、（３）の圏域全体の生活関連機能サービスの向上では、企業によるまちづくり活動の促進として、さっぽろ連携中枢都市圏まちづくりパートナー協定の締結企業１７社とともに様々な分野における取組を実施しております。

最後に、消防の連携・協力の推進として、消防救急無線の共同整備や消防指令業務の共同運用に向けた準備を行っております。

２の連携市町村への波及効果です。

こちらは、市町村へのアンケート調査の結果と６月１日に開催いたしました関係首長会議の場で発言していただいた内容をまとめております。

（１）の連携市町村にとってメリットがある事業です。

単独の市町村では実施が困難な事業として、公立夜間中学や災害時における連携の推進がよかったというご意見をいただいております。

スケールメリットが感じられる事業としては、公共施設の相互利用や配置に関する検討による斎場の共同利用、また、消防の連携・協力の推進などの事業が挙げられました。

札幌市が持つ機能を活用できる事業としては、企業によるまちづくり活動の促進やＬｏｃａｌ　Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ　Ｃｈａｌｌｅｎｇｅ　ＨＯＫＫＡＩＤＯなどが効果的であったという評価をいただいております。

一方で、（２）の連携市町村がメリットを感じにくい事業ですが、効果が不十分な事業として、にぎわいの創出や移住促進については不十分であった点が指摘されております。

また、周知不足の事業としては、東京事務所を活用した首都圏ＰＲやさっぽろ圏人材育成確保基金は手法や効果が周知されていない点が指摘されました。

３の三つの役割における重要業績評価指標は、先ほどご説明したとおりです。

右側４の総括の欄ですが、第１期ビジョンを振り返りまして、連携事業の実施により行政コストの削減や運営の効率化が図られ、また、連携市町村への波及効果も確認できました。札幌の人口、経済は、連携市町村を含めた道内市町村に支えられていることから、引き続き圏域全体の発展につながるような効果的な事業の展開、開拓に努めていく必要があると考えております。

また、三つの役割における重要業績評価指標につきましては、新型コロナウイルス感染

症の影響を受け、数値が悪化しております。第２期ビジョンにおいては、目標値の達成に向け、圏域の強みを生かし、外部環境の変化を捉えた取組を推進していく必要があるという総括になっております。

Ⅱの圏域のＳＷＯＴ分析とⅢの第２期ビジョンにおける重点施策案につきましては、資料５－２で詳しく説明させていただきます。

それでは、資料５－２をご覧ください。

まず、Ⅰのさっぽろ圏ＳＷＯＴ分析の考え方です。

こちらは、内部環境の圏域の強みと弱みにつきましては、現在のビジョンにおける分析に加え、令和４年度に実施した地域の未来予測の結果、第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおけるＳＷＯＴ分析等を参考に検討いたしました。

外部環境の機会と脅威につきましては、国の動向と第２次戦略ビジョン等を参考に検討し、一旦、このようにまとめております。

現在、並行して調査している圏域の最新データや本会議におけるご意見を反映させて完成させたいと思っております。

ⅡのＳＷＯＴ分析から導く重点施策（案）となります。

圏域の弱みを克服するため、産業、インフラ・行政サービス、ひとにおいて取組の基本的方向性、重点施策案を検討いたしました。

まず、一つ目の視点である産業です。

産業に関わる強み、弱み、機会、脅威を取り出すとこのようなものがあると思います。

圏域の強みとしましては、豊富な観光資源があること、食の魅力があること、圏域の弱みとしては、圏域外から稼ぐ力が弱いこと、外部環境の機会としては、ＤＸの推進などが挙げられると思います。

ここから、圏域外収支はマイナス３，５００億円となっており、圏域の外から稼ぐ力が弱いです。また、生産年齢人口の減少による経済規模の縮小や人手不足も課題となっております。このため、圏域の強みである食の魅力や豊富な観光資源を生かし、圏域外から稼ぐ取組が必要であると考えました。さらに、ラピダス社が次世代半導体工場を千歳市に建設することを表明していることから、これを契機に、大学などの研究機関の集積を生かし、新たな投資を呼び込む可能性があると考えます。

そこで、重点施策案１として、圏域の強みを生かし、新たな投資を呼び込むと設定いたしました。また、圏域内の企業の９９％以上が中小企業となっており、中小企業の経済活動を支援することで圏域経済を発展させることができると思います。そのため、デジタル技術の活用により、中小企業の生産性を向上させるなど、圏域経済を維持、拡大させる取組が必要であると考えます。さらに、圏域には、農業を基幹産業とする自治体も多く、圏域の強みである豊かな自然環境や食の魅力を支える上でも農業の新たな価値を見出すことが重要であると考えました。

そこで、重点施策案２として、圏域の経済を支える産業を支援すると設定しております。

右側に移りまして、二つ目の視点、インフラ・行政サービスです。

インフラ・行政サービスに係る強み、弱み、機会、脅威を取り出すと、このようなものがあると思います。

まず、圏域の強みである充実した都市機能、一方で、脅威として全国的な少子高齢化があります。圏域内、特に札幌には大学などの研究機関、医療機能、文化施設、行政機関などの都市機能が多くあります。人口減少、超高齢化社会の到来を見据え、安定的なサービスの提供を目指し、持続可能な圏域とするため、圏域全体での利用を検討していく必要があると考えました。

そこで、重点施策案３の高次の都市機能について圏域全体での利用を促進すると設定しております。

さらに、圏域の弱みである公共施設の更新時期の到来、外部環境の機会としてはＤＸの推進がありますので、２０４０年までに圏域にある公共施設の多くが更新時期を迎えますが、人口減少、少子高齢化の進展により労働力や自治体の税収減少が見込まれることから、公共施設や公共サービスを自治体ごとにフルセットで行うことは困難になります。一方、自治体のＤＸ化により、住民サービスの維持向上が可能であるとも考えられます。

そこで、重点施策案４を持続可能な行政サービスを提供すると設定しております。

最後に、三つ目の視点のひとです。

人にかかる強み、弱み、機会、脅威を取り出すと、このようなものがあるかと思います。

まず、圏域の弱みとして、人口減少、少子高齢化があります。一方で、機会としては、国の施策における女性活躍の推進や子育て環境の整備促進、ワーク・ライフスタイルの変化、人生１００年時代の到来などがあります。ワーク・ライフスタイルの多様化など、社会環境の変化や国の動向を踏まえ、女性活躍の推進や子育て環境の整備などを促進し、圏域の暮らしの質を高めることが重要だと考えます。また、２０１８年に発生した北海道胆振東部地震などをはじめとする想定外の大規模災害への連携した対応や少子高齢化社会の進展に伴う救急医療の適正化など、安全・安心な暮らしを確保し、住みやすい圏域を目指すことが大切だと考えました。

そこで、重点施策案５を暮らしの質を高め、住みやすい圏域をつくるというふうに設定しております。

さらに、圏域の弱みである２０歳から２９歳人口における道外流出増や、人口減少、少子高齢化の進展、さらに、外部環境の脅威でもある全国的な少子高齢化を受け、圏域の人口は減少の一途をたどり、生産年齢人口の割合も減少し、少子高齢化が進む予測となっております。また、２０歳から２９歳人口の道外への社会増減数も改善していないことから、引き続き、圏域の将来を担う若年層において、人口の流出を食い止めるとともに、道外からの流入を促すことが必要であると考えました。

そこで、重点施策案の六つ目を圏域の将来を担う人材を育成・確保すると設定しております。

もう一つの大切な視点として、Ⅲの脱炭素の促進があると思っています。

脱炭素の促進につきましては、産業、インフラ・行政サービス、ひとの三つの視点において取組を進めていかなければならないものと考え、全分野に係る基本的方向として整理いたしました。

資料５についての説明は以上になります。

参考資料１について、ここでご説明させていただきます。

第２期ビジョンの策定に当たりましては、昨年７月に開催したビジョン懇談会の場で構成員の皆様から連携市町村の住民の方の意見を聞くことが大切だというご意見を頂戴しました。本当にそのとおりだなと思いまして、昨年、８市町村に行って、直接、住民の方とお話ししてきましたので、その結果についてここでご報告させていただきます。

参考資料１のさっぽろ連携中枢都市圏住民懇談会の実施についてです。

１の目的ですが、さっぽろ連携中枢都市圏に対する認識やニーズ等を確認することで第２期ビジョンをより実効性のあるものとするため、連携市町村住民との懇談会を開催し、意見交換を行いました。

２の開催日時は、こちらに記載しているとおりとなります。

３の懇談会の内容ですが、まず、さっぽろ連携中枢都市圏の取組について説明いたしました。その後、意見交換として、テーマを三つ設定し、まず、さっぽろ連携中枢都市圏及び連携事業に対する認知度、札幌市に対するイメージ、自分が住んでいるまちについてに分かれ、ざっくばらんに意見交換をさせていただきました。

右側４の参加者意見ですけれども、連携中枢都市圏の取組について、札幌市に対するイメージ、自分が住んでいるまちについて、いろいろなご意見を頂戴しております。

最後に、５の第２期ビジョンの策定に向けて（所感）という欄ですけれども、さっぽろ連携中枢都市圏及び連携事業に対する認知度はほぼ０％でありました。今後は、認知度向上に向けた取組を実施するとともに、連携事業による行政サービスに対する住民満足度を上げる必要があると感じました。また、札幌市に対しては、心理的・物理的距離が近く、あまり市域を意識していないとの意見が多かったです。また、自分が住んでいるまちが好きで、自慢できるものがあると認識している方が多いことも分かりました。

住民の方だけが知っているまちの魅力は貴重な資源で、圏域の魅力を効果的に伝えるためには、一般的な表現だけではなく、より細かい情報を発信することが重要だなと感じました。

第２期ビジョンの策定に当たりましては、今回の住民懇談会で聞き取った意見も参考に連携事業の構築を進めていきたいと考えております。

第２期さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン策定についての資料説明は以上となります。

○平本会長　ただいまご説明をいただきました内容についてご質問あるいはご意見があればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○中原構成員　感想と質問をさせていただきたいと思います。

まず、感想の一つは資料５－１についてです。第１期のビジョンを振り返っていろいろと整理されておりますし、圏域全体としてのポテンシャルが向上してきていると感じました。それから、連携市町村への波及効果も見えてきたということで、連携することに伴うメリットがどんどん増えてきていることがよく整理されている気がいたしました。

それから、感想の二つ目は、ＳＷＯＴ分析を加えたことによって、導かれた重点施策というものが以前は三つでしたが、これが六つになって、方向性がより明確になってきたような気がいたしました。

次に、質問ですけれども、２点ございます。

１点目は、第１期、第２期という区分けについてです。これは、期間という意味ではありませんね。これまで検討されてきたものが第１期であって、それを見直した次のバージョンということで第２期という言葉の使い方をされていると思うのですが、それをお尋ねします。

２点目は、第２期ビジョンでは重点施策が六つになっています。重点施策を横軸、様々な事業を縦軸としたクロスでビジョンを実施していくということになるのですけれども、第２期で重点施策が増えることに伴って絡んでくる事業がさらに追加になるのか、あるいは、入替えなどで構成が変わっていくのか、そこをご説明していただければと思います。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　まず、１点目についてです。

現在の連携中枢都市圏ビジョンの取組期間が２０１９年４月１日から２０２４年３月３１日までの５年間と定められております。それを期限に現ビジョンが終わって、次の新しいビジョンを第２期ビジョンと呼んでいるという整理になります。この後、同じく５年間を想定して新しいビジョンを策定する予定です。

次に、連携事業についてです。

今は三つの重点施策がありまして、それが全ての連携事業に係る重点施策というような整理をしております。これから第２期ビジョンに掲載する連携事業をまとめていくのですが、現在のものをベースに新たな事業も追加していく方向ではありますし、一部の事業はなくなる可能性もあるとは思っています。

現在は、三つの施策が全ての連携事業にかかっているという整理ですけれども、第２期ビジョンにつきましては、例えば、現在の案としている六つの重点施策案に、それぞれといいますか、特にこれが重点施策案に関わる連携事業ですという見せ方にしたい、そういうまとめ方にしたいと考えております。

○平本会長　ほかにいかがでしょうか。

○木村構成員　１点質問です。

第１期もそうでしたけれども、状況の変化などに応じて年次更新をしていたかと思いますので、恐らく第２期についてもそうしていくのかなと思っております。

そういった中で状況に変化があった際、あるいは、新しい課題が出てきたとき、先ほどの資料３－２の実施状況一覧にも関係するのですけれども、評価としてバツがつくような

事業が出てきたとき、具体的にそれを担当する部署で改めて協議するような仕組みは今までにもあったのでしょうか、そして、今後はどうなるのかを確認させていただければと思います。
〇事務局（伊藤広域連携担当課長）　事業の進捗につきましては、毎年、１２月に１回、取組状況の中間取りまとめをして、３月が終わってから最終的な取りまとめをします。これは今までもそうですし、第２期ビジョンのときも同じように進捗管理を進めていきたいと考えております。
〇平本会長　ほかにはいかがでしょうか。
〇草野構成員　質問です。
　２０歳から２９歳の人口の道外流出者数はＫＰＩとしても重要な位置づけで書かれているかなと思うのですけれども、２０代というのはライフステージが細かく変化していくと思うのです。２２歳になると大学を卒業する年ですが、恐らく、それで一時的に道外に出て、最近のはやりですと、３年から５年で戻ってくる、こうした２０代の動きがあるかなということが想定されます。
　これはそうしたものをまとめて指標として見ているのか、もう少し細かい動きも拾っていこうとしているのかについてお聞きしたいです。
〇事務局（加茂政策企画部長）　統計数字を基にすると、２０歳から２９歳の方の道外流出が多いとなっております。
　細かく見ていったほうがいいというご意見と捉えましたが、そこについては研究をさせていただければなと思います。大学を２２歳で出る方もいれば、２３歳で出る方もいるなど、ぶれがあるでしょう。どのように統計数字を見ながら対策を立てていくかも含め、研究させていただければなと思います。
〇草野構成員　私は２０代の方と付き合いが長いのもありまして、大学の授業でもデータを細かく取っているのですけれども、やはり、将来的には戻ってきたいと考えている人たちが非常に多いですね。では、いつ戻ってきたいのかと質問すると、３０歳前後ということが見え隠れしています。
　たしか、数字を見ると、３０代になると少し戻ってきていたはずだったと思います。北海道では２０代の方が出ていくのですけれども、３０代については北海道に戻ってきている数字があったかなと思います。ですから、ここだけで見るのではなく、その前後も見てほしいなと思います。今後のＫＰＩの設定もあるわけですが、ここだけの数字よりもう少し振れ幅を持たせるほうがいいのかなという意見です。
〇平本会長　細かく見ればいいということですか。それとも、例えば２９歳から３５歳ぐらいのところを塊として意識したほうがいいということでしょうか。
〇草野構成員　その両方をお伝えしたいです。
　まとめて出ていっているものだけを見ると、例えば、２０代後半で戻ってきているのかが分からないと思うのです。２２歳で大学を卒業する際、北海道を出るということがあり、

それが本当に悪いのかどうかという議論もあるわけですし、戻ってきているどうかにもう少し軸を置いたほうがいいのではないかということです。

○平本会長　今のご指摘はいろいろな施策を考える上でも重要なポイントだと思うので、ご考慮をいただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○田村構成員　次のビジョンの策定の考え方として脱炭素が将来に向けて本当に基本的な考え方になると思いますので、横断的で全体的な基本方針として整理するというのはすごくいいのかなと思いました。

また、私は、北海道、札幌に来まして、それぞれの市町村、それぞれの機関、それぞれの機能がすごくバラエティーに富んでいるなと感じています。

今回のまとめ方を見ると、視点が産業、インフラ・行政サービス、ひとと分野別に分かれていますが、さっぽろ連携中枢都市圏内にあるいろいろな機能が、例えば、研究機関、金融機関、産業など、いろいろな機能と連携するようなビジョンがあったほうがいいのではないかと思いましたので、コメントさせていただきます。

○平本会長　重点施策案として連携ということをもう少し明確に打ち出したほうがいいのではないかということでしょうか。

○田村構成員　具体的に言うと、産業、行政、金融、学問等の様々な機能がせっかくあるので、それぞれの機能が連携できる体制づくりみたいなものがあってもいいのではないかということです。

○平本会長　どういう文言で書けばいいのか、私も今すぐには思い浮かばないのですけれども、連携中枢都市圏なので、連携ということをもっと明確に打ち出したほうがいいかなというようなニュアンスでよろしいでしょうか。

○田村構成員　そうですね。これには圏域と書いてあって、行政機関が連携するというイメージを持ってしまうのですが、圏域の中でも様々な産業や研究機関があるでしょうし、それぞれ個々の機能が連携できる体制をつくるということです。

○事務局（加茂政策企画部長）　少し研究をさせていただきたいと思います。

今まさに田村委員がおっしゃった脱炭素の取組では、先日の新聞でも、札幌に環境の金融、投資を呼び込もうという動きを環境事務所のご協力もいただきながら進めておりますけれども、やはり、産学官金がしっかりとタッグを組まないとなかなか前に進んでいかない時代になってきたかなと思っています。連携中枢都市圏という取組の中でそれをどのように書き記していけるかどうかは研究させていただきたいと思います。

○平本会長　ほかにはいかがでしょうか。

○李副会長　資料のまとめや来期に向けての提案もすごく分かりやすいと思います。

ただ、１点だけ確認のための質問があります。

１期目でまだ実現できていない課題が何件かありましたよね。例えば、ＭＩＣＥ誘致の推進、にぎわいの創出と子どもの社会体験活動などは未解決といいますか、まだ達成でき

ていないものだと思いますが、それらを第２期ではどう推進するのか、もしくは、内容を少し変更し、推進していくのかについてもう少し明確に示してほしいなと思いました。

もう一点、これはテクニカルなことで、平本会長のご専門かと思いますが、ＳＷＯＴ分析の精緻化についてです。

外部環境はそうだとして、内部環境の強み・弱みというのはどこと比べているのかをもう少し明確にされたほうがいいかと思います。これはさっぽろ圏域のことですが、北海道のほかの圏域と比べてなのか、そうであるならば、都市機能が充実されているのは分かります。でも、例えば、釧路と比べて豊かな自然環境なのかという話にもなるわけです。

ですから、強みと弱みについては、どこと比べているのか、例えば、本州のどこかと比べてこう言っているのかを分かるようにしたほうがいいと思います。同じように、弱みもそうです。先ほどあったように、若い人が流出しているというのは分かっているのだけれども、子育て世代が戻ってきている調査結果があるかもしれませんよね。ですから、Ｕターンやｌターンのデータも含め、もっと精緻化する必要があるなと思いました。

そして、そうしたデータがもう少し精緻化された後に、強みを生かし、脅威を緩和する対策をどのように取ったらいいかなど、クロスＳＷＯＴと言うのですけれども、平本会長に相談され､もう少し内容を充実化させるともっと分かりやすくなるのかなと思いました。

○平本会長　第１期で必ずしも達成できていなかったことが第２期でどう反映されるのかについてコメントがあればいただきたいと思います。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　達成不可だった事業につきましては、基本的には引き続き取り組んでいくものと考えております。

ただ、李副会長がおっしゃったように、全く同じというよりは、コロナによってできなかったものも多いのですけれども、そうではないものについては、どうやったら第２期では達成できるのか、どうやったら連携効果を発揮できるのかについてもう一回考え直し、担当部局と相談したいと思っております。

次に、ＳＷＯＴ分析についてです。

確かに、どこと比べての強みや弱みなのか、今お話を聞いてはっとしましたので、改めてしっかりと考えたいと思います。

○平本会長　今、李副会長がご指摘をいただいたとおり、もう少し精緻化すると重点施策がよりクリアになっていくのではないかということかと思いますので、ご検討をいただければと思います。

今の李副会長のご質問と関連するのですけれども、第１期で未達、達成不可見込みの事業のうち、例えば、にぎわいの創出については、資料５－１で必ずしも効果が十分とは言えなかったというような評価がされていますよね。

これは事業の中身が少し弱かったからそうなのか、そもそも、にぎわいの創出を連携中枢都市の中でやることにあまり意味がないのか、どちらなのかです。あるいは、ＭＩＣＥにしても、多分、コロナ前とコロナ後で考え方が変わって、大規模なイベントや大規模な

コンベンション、あるいは、エキシビションの招致が必ずしも重要ではなくなっているかもしれません。一方、インセンティブツアーみたいなものはこれからも経済に関連するところで十分な意味を持ってきそうですよね。ですから、ＭＩＣＥの四つ全部が均等にあるわけでもないような気がするのです。

その上で重点の置き方をどうするかについてのご検討は今後行われるのかについて教えてください。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　ＭＩＣＥにつきましては、平本会長のご指摘のとおり、状況が４年前とはかなり変わっていると思いますので、担当部局と相談しながら、第２期ビジョンはどう載せたらいいのか、成果指標は何にしたらいいのかは検討したいと思います。

○平本会長　ほかに何かお気づきの点があれば、ざっくばらんにご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○髙橋構成員　ＪＡ北海道中央会の髙橋と申します。名簿に中央会という文字が抜けていまして、次回から入れていただければと思います。

資料５－２の第２期ビジョン策定の左側のページの下のほうの重点施策案２の関連で、下から３行目に「さらに、圏域には農業基幹産業とする自治体も多く」とありますが、まさにそのとおりだなと思っています。具体的には、岩見沢市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町あたりが行政として農業を基幹産業にしている自治体なのだろうなと思っています。

そこで、質問があります。

農業団体目線で言うと、基盤整備事業や研究開発もそうですし、普及センターも含め、農業というのは地元行政、自治体との結びつきが本当に強いのですね。でも、南幌町、長沼町、岩見沢市は空知振興局の管轄になるので、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの動きとして、道庁をトップとして、振興局をまたがっての引っ張り込みをどうやってできるのか、どこまで実効性が持てるのか、特に農業分野は振興局単位で動いていまして、それを疑問に感じたところでして、ご回答をいただければと思います。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　さっぽろ連携中枢都市圏の中で考えている農業というのは、農業施策というより、農業を基幹産業としている自治体があって、豊富な食資源があるから、それを生かして観光に結びつける、あるいは、グリーンツーリズムや農業体験ツアーなどをつくっていけないかなというようなイメージで重点施策２に農業という言葉を入れ込んでおります。

確かに、振興局が違いますので、本当に深いところの農業施策をするということではなく、成果を使って圏域を盛り上げていきたいというようなイメージだということです。

○平本会長　ほかにお気づきの点があればご発言をお願いいたします。

○稲上構成員　先ほどの李副会長の話に戻してしまうかもしれないのですけれども、ＳＷＯＴ分析で見ますと、確かに、ほかのところとの比較も大事だなと思いますけれども、多分、どの都市においても同じような強みと弱みがあるのかなと思うのです。その中で、ど

こにも負けない本当の強みとは何なのかです。

　また、逆に弱みで言いますと、２０歳から２９歳の方の道外流出が増えていますけれども、この原因は何なのかです。所得なのでしょうか、仕事なのでしょうか。

　仕事でお客さんとお会いすると、人がいないといいますか、人手不足なのに道外に流出しているというところがすごく大きな問題なのではないかと思っていまして、そこをやはり追求していかなければいけないのかなと思っております。

　また、ちょっと的外れかもしれないですけれども、構成する市町村の強みを一言で表現する言葉とは何なのかなと思うのですね。例えば、美瑛の丘というと、すごく自然がイメージされますよね。そして、その自然を見るために、丘を見るために美瑛にあれだけの観光客が集まっているわけでして、ここに並んでいる市町村の本当の強みが実は見えていないのではないかなと思いました。

○平本会長　結構重要なご指摘だと思います。

　強みといっても、他の都市あるいは都市圏と比べてそんなに強みになっていないのではないかということですよね。それから、弱みについては、どうしてそうなっているのかという分析が必要だということでした。

　さらに、連携中枢都市圏全体としてのアドバンテージといいますか、魅力ですね。それを一言で言うのは本当に難しいと思うのですけれども、キャッチフレーズ的にぽんと言えるといいのにねというご意見だったのかなと思います。

　それを事務局で全部考えてくださいと言うのも無責任な話で、そうもいかないとは思うのですけれども、ＳＷＯＴについてはもう少し深掘りする余地があるのかなと思いましたので、やっていただきたいと思います。

　それから、委員の皆様方には、稲上委員からご指摘のあったさっぽろ連携中枢都市圏全体としての魅力は何なのかについて、何かお気づきの点があれば、今日のこの場でなくても構わないので、事務局にご意見を寄せていただけると、今後、キャッチフレーズみたいなものがつくりやすくなるかもしれないと思いました。

　ほかにはいかがでしょうか。

○木原構成員　第１期のさっぽろ連携中枢都市ビジョンの振り返りの中でもうたっていただいておりますけれども、共同プロモーション、観光資源の活用、あるいは、さっぽろ圏の人材育成のところです。参考資料１の５の第２期ビジョンの策定に向けてというところで非常に気になるといいますか、ＰＲとしては非常にいいうたい方だなと思ったところがありました。それは、住民だけが知っているまちの魅力づくりということです。

　観光資源としてクローズアップさせるのは非常に難しいことではあるのだろうと思うのですけれども、この１２市町村で自分たちにしか分からないものをクローズアップし、連携中枢都市に反映させていくことによって、本州から１２市町村に人を呼び込む非常に大事なポイントになると思いました。

　観光振興機構では、今年度からの新たな取組として、ケアツーリズムやワインツーリズ

ム、ナイトタイムエコノミーという三つのテーマを決めてやっております。

まず、ワインツーリズムです。

今までもワインツーリズムは実施されておりましたけれども、今回は、ワインにこだわるのではなく、アルコールをテーマとしたツーリズムをやりましょうということで進めております。まさに、１２市町村の中には、ビールやワインなどで様々なアルコールの取組をされているところもありますので、そういったことでの連携はできるのだろうと思っています。

そして、ケアツーリズムです。

心と体の健康をテーマとしたツーリズムを推進しましょうということでして、旅行に行きたいのだけれども、体が不自由で旅行に行けないといったとき、医療機関のお医者さんや看護師たちの力を借りながら、ハードは整備されていないのだけれども、ハートでケアしていただこうということで、今まさにそれが具現化しつつあるところであります。

それから、ナイトタイムエコノミーです。

明日、ＡＯＡＯがオープンするということで盛んにニュースでも流れておりましたけれども、せっかくご家族で、あるいは、友人同士で札幌へ、もしくは、１２市町村に来たときに、夜、家族で楽しむことができるかです。これは意外と少ないのではないかと思うのですね。

そこで、参考資料にありましたけれども、住民だけが知っているまちの魅力は非常に大切なキーワードになると思いますので、ぜひ１２市町村の連携の中で取組を深めていただくキーワードとしていただきたいと思った次第です。

○平本会長　おっしゃるとおりでして、住民だけが知っているまちの魅力は、まさにここに書いてあるとおり、貴重な資源なのです。ただ、それを住民だけしか知らないからうまく活用できないわけで、そういった半ば潜在化しているものを顕在化させ、それを圏域でつないでいけばいいですね。

先ほど圏域での周遊する旅行商品をつくったというようなお話がありましたが、そういう形で圏域の魅力を高めていくことにつながるというご指摘だと思います。そして、そこに今ご指摘のあったアルコールツーリズムやケアツーリズム、あるいは、ナイトタイムエコノミーがあるということですよね。

ナイトタイムエコノミーを考えると、今度は交通手段をどうするのかなど、別の考えなければいけない問題が出てくると思うのですけれども、そういったことを含めての魅力度の向上が必要だというご意見で、それはまさにそのとおりだと思います。ただ、事務局の人にそれを考えてくださいと言うのではなく、そういったことを施策に反映させていくことが重要だろうということかと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

○今構成員　こういう場でこんな発言をしていいのかどうかは分かりませんが、バス協会の者として、バスの今の状況について、また、今後努力をしていきたいことについてお話

をしたいと思います。

先日の北海道新聞では、南区のじょうてつバスが最終便のバスを減便するということが載っておりました。それで南区の住民の方々が北海道バス協会に来られまして、何とかならないのかということがありました。

ただ、コロナ前から運転手の確保が難しくなってきていまして、簡単に言うと、６５歳を過ぎると、バスの運転手としてはいいかなということで退職をされるのです。でも、そうして辞めていった方々の人数分を採用できていないのです。したがいまして、減っていきまして、最終的にはじょうてつバスのように減便をせざるを得ないというような状況になっています。そして、これは、札幌市内ばかりではなく、全道的に路線バス事業者が抱えている課題です。

バス協会としても、合同の就職説明会はしているのです。先週の土曜日にも旭川地区でやりましたけれども、年々、大型二種免許取得者数が減少し、高齢化しているという実態もあるのです。バス協会としては、会員とともに、運転手の確保に努力をしていきたいと思っていますが、そういう厳しい状況も一方ではあるということで発言させていただきました。

○平本会長　運輸業界の２０２４年問題なども指摘されていますけれども、運転手の減少が問題になっているということだと思います。

圏域で考えたとき、例えば、札幌では不足しているのだけれども、圏域の中のほかの自治体にはもう少しリソースがあるなど,そういう資源の偏りみたいなものはあるのですか。それとも、連携中枢都市圏全体で人手不足が深刻化しているということなのですか。

○今構成員　夕張に夕鉄バスというバス会社がございます。既に報道されておりますが、９月から夕張－札幌線をやめるというようなことも出ていますので、連携都市圏の話ではなく、全道的な話になると思います。

○平本会長　そういう状況の中で、なかなか難しい課題かとは思いますが、連携中枢都市圏として一体何ができるのかを考えていかなくてはいけないですね。

ほかにはいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　最後に、スケジュールをご説明させていただいてもよろしいでしょうか。

○平本会長　それでは、スケジュールについてご説明をいただきたいと思います。

○事務局（伊藤広域連携担当課長）　資料6のさっぽろ連携中枢都市圏スケジュールをご覧ください。

今後、今日いただいたご意見を基に、圏域のＳＷＯＴ分析をもう少し深め、重点施策案をつくりたいと思います。

上の大きい矢印の二つ目のところですけれども、次回、圏域の概況、圏域のＳＷＯＴ分析、重点施策案、成果指標、取組事業案などを策定し、１０月にビジョン懇談会をまた開

催させていただきたいと思っています。そして、その場ではこれらをお示しさせていただきたいと思います。その後、パブリックコメントを実施し、３月末に第２期ビジョン策定というスケジュールです。

○平本会長　今ご説明をいただきましたように、もう少し精緻化し、第２期ビジョンの原案をつくっていただき、それを１０月の第２回目の懇談会でご意見を頂戴しながらブラッシュアップしていくということでした。

今の点につきまして何かご質問等はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長　それでは、全体を通して、ご発言が十分ではなかった部分やお気づきの点があれば、最後に委員の皆様からあればご発言をいただきたいと思いますが、何かございませんか。

○草野構成員　今回、話題になっていた話で、ＳＷＯＴ分析にも関連する話ですが、先ほどのヒグマの話です。

ヒグマをネガティブに捉えるといっぱい出ていて大変だということになるかと思うのですが、世界的に見ましたら、２００万人近い都市のすぐそこの森に日本最大の野生の大型哺乳類であるヒグマがいる、そうした動物が生息しているすぐ脇に私たちが住んでいるということ自体、かなりまれなのです。つまり、豊かな自然環境の象徴的なヒグマがすぐそこにいるからトラブルも多いということでして、これは強みでもあり、弱みでもあり、課題も抱えている状況だということです。

今年、北海道でアドベンチャーツーリズムもありますし、私も少し関わっておりますけれども、サステナブルブルツーリズムといいますか、持続可能な観光を推進しながら地域づくりを持続化していこうということもあるわけです。そうした観点で考えますと、ヒグマとの関係性が強みで出てくるといいますか、いいも悪いも含め、プロモーション力はかなりあるといいますか、特徴の一つですし、業界的にはよく言われている話なので、お伝えさせてもらいました。

○平本会長　全国で見ても政令市の中央区に熊が出るというのは札幌市だけだと思いますので、その意味では稀有な都市なのだと思います。

つまり、ヒグマというのはある種の弱みであるかもしれないけれども、考えようによっては強みにもなり得て、そういったものをどのように生かしていくのかも含めた考え方が必要ではないかというご指摘かと思います。

ほかに何かお気づきの点はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本会長　それでは、これで本日の懇談会は終了したいと思います。

最後に、事務局から何かございましたらお願いいたします。

３．閉　　会

○事務局（加茂政策企画部長）　本日は、大変貴重なご意見をどうもありがとうございました。本日いただいたご意見なども踏まえ、第２期ビジョンの策定を進めてまいりたいと思います。

先ほどスケジュールのご説明をさせていただきましたが、１０月頃に具体的な第２期ビジョンの案を示させていただく予定です。引き続き、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○平本会長　それでは、本日のビジョン懇談会はこれにて終会とさせていただきます。

早朝からお集まりをくださいまして、活発にご審議をくださいまして、どうもありがとうございました。１０月もよろしくお願い申し上げます。

以　　上